

2 パンチニードルに糸を通します



糸通し針に毛糸を通し、写真のようにパンチニードルに差し込んで針先を出す。



さらに、針先にあいた穴に糸通し針を通す。

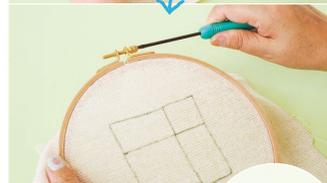


毛糸が針先の穴に通ったところ。糸端は針先から5cm程度出しておく。

1 布をセットします



図案を写し取ったハトロシ紙の上に布を重ね、ペンで図案を描き写す。
※粗織りの布だと図案が透けるのでこの方法でOK。透けない場合はチャコペーパーなどを使用。



図案が刺しゅう枠の中心にくるようにはめてネジを締め、布を引っぱってピンと張る。さらに、マイナスドライバーでネジを締め、布がピンと張った状態に固定する。



パンチニードルの基本的な刺し方

ループ面とステッチ面を組み合わせた図案で解説します



ループ面とステッチ面の組み合わせの場合はループ面が表側になる部分から、面積に大小がある場合は広い部分から刺すのがコツ。④～①の順番に刺す。刺しゅう枠は図案よりふた回り大きめが目安。

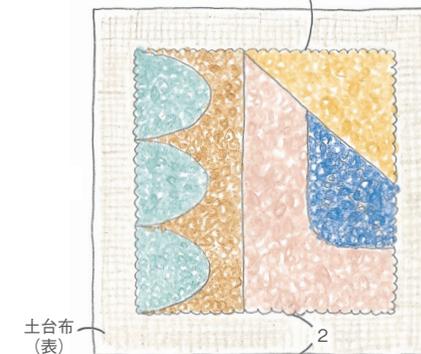


材料と用具 パンチニードルと付属の糸通し針、マイナスドライバー、ペン、糸切りバサミ、裁ちバサミ、布(粗織り)、刺しゅう枠、ハトロシ紙、好みの毛糸4種各適量(プロセス解説では超極太のピンク・黄色・茶色と並太の水色を使用)。

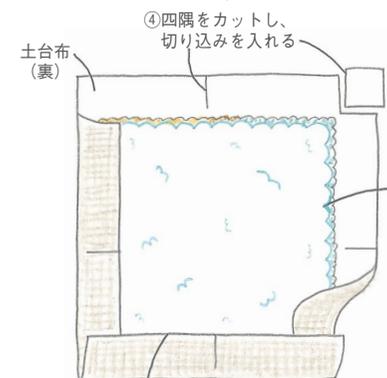
パンチニードルのコースター

☆全て裁ち切り

①5色の毛糸のループ面が表になるようにパンチニードルを刺す
(「パンチニードルの基本的な刺し方」参照)

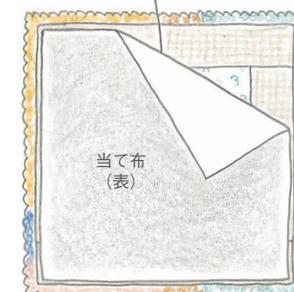


②折り代をつけて土台布をカットする



⑤折り代を折って、ボンドで貼る

⑥当て布(12cm四方)をボンドで貼る



材料 土台布30cm四方、当て布用フェルト15cm四方、接着キルト芯15cm四方、極太毛糸5色、18.5cm径刺しゅう枠。

6 糸を2本どりにし、**d**を刺す



糸通し針の段階から毛糸を2本通し、ニードルに毛糸を通すとラク。刺すときは糸玉からの糸の引き出し加減(★)をそろえながら**c**と同様に刺す。

完成!



5 ステッチ面の**c**を刺します



ループ面の**a**、**b**が表になるように仕上げるため、布を刺しゅう枠からはずして裏返し、はめ直す。図案は布を透かしてなぞり、写し直す。

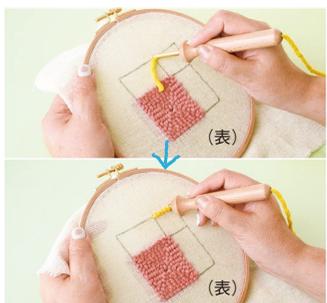


先に刺したループ面の糸を針先でよけるようにし、きちんと角にニードルを刺し込む。輪郭を刺すときは指でループを押さえるようにしてよけると刺しやすい。



ステッチ面の**c**が刺せたところ。ステッチ面が表側にくる場合は、すき間があかないように刺すときれいに仕上がる。

4 毛糸を変え、**b**を刺します

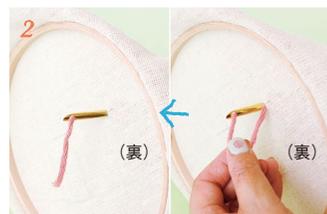


毛糸を変えて刺す場合でも、**a**のときと同様にパンチニードルに糸を通して刺せばOK。

3 ループ面の**a**を刺します



刺しゅう枠を左手で持ち、写真のように構える。糸玉から糸を多めに引き出しておき(★)、図案の角にパンチニードルの針を根元まで刺し込む。



糸端を裏に引き出す。



針先が布の表面から離れないように引き上げ、布の表面を滑らせるようにスライドさせて少し離れた所に刺す。



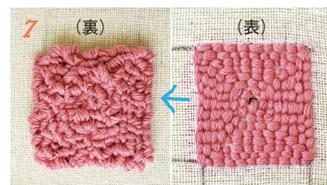
3を繰り返して図案の輪郭を刺していく。



輪郭が刺せたら、内側へ向かってぐるぐると刺し埋めていく。



刺し終わりはパンチニードルを刺した状態で糸をカットし、抜く。糸端や飛び出した糸はループの高さに合わせて切りそろえる。



写真右が刺したときの表側(ステッチ面)、左が裏側(ループ面)。**a**、**b**は裏側のループ面を表に使用する。

[パンチニードル Q&A]

Q. 布はどんな布がいいの?

A パンチニードルの針が刺さる、目の粗い綿や麻、綿麻など。刺しゅう枠にピンと張って刺すので、丈夫で厚みのあるものがおすすめ。



Q. 毛糸はどんな太さでもいいの?

A パンチニードルの針が筒状になっているので、その筒に通る太さの毛糸ならOK。ただし、あまり細いと針を刺したとき、布の穴から毛糸が抜けてしまうのでNG。細い糸の場合は2本どりにするとうまくいくことも。太い糸ならクラフト糸やフーヤーンで刺すのもおもしろいです。



パンチニードルの
ポットマット&コースター

